



堀に映る夜のイチゴハウス（侍島）



イチゴハウスの中でも食の景観が広がる（蛭池）

V 構 想

ビジョンを実現化するため、3つの方針とエリアを設定します。

1) 食の景観を守る

2) にぎわいの景観を創る

3) 質の高い暮らしの景観を整える

1) 食の景観を守る

堀と田んぼが織りなす風景は、自然条件を克服しながら先人たちが作りあげてきた農業による『食の景観』です。そのおかげで、私たちは、美味しくて安心安全な“食”を多くの人に提供する役割を果たしています。

そうした『食の景観』を守ることは、農業を守ることです。しかし今日、農業は国内産地との競争ばかりか国際競争力も求められる厳しい状況にあります。

そこで、大木町は付加価値の高い美味しくて安心安全な食を地産地消で提供し、人と人が交流するにぎわいの場と拠点をつくり、持続可能な農業を目指します。

【対象エリア】

『食の景観』を守るゾーンは、町全域のうち、農業を営むエリアで、持続可能な農のあり方を実践していくエリアです。



2) にぎわいの景観を創る

にぎわいの景観とは、町民はもとより町外の人が集まることで人と人との交流の場が生まれ、にぎわいと活気を感じさせる場所です。町外の人に大木町の食、循環の暮らし方といった大木町らしさを発信し「この町に来て良かった」と思える場にします。

【対象エリア】

■西鉄駅周辺

町民にとって「この町に暮らして良かった」と思える大木町の良さを再認識する場とし、都会(仕事)から帰ってきてほっと一息つけるような町の玄関としての役割を果たします。

■道の駅おおき、くるるん、アクアス、環境プラザ

ゴミやモノの循環に限らず、都市と農村の交流、地域の人同士の交流、あらゆる世代の交流、経済(お金)の循環、昔からの文化を現在に生かす循環など、様々な循環を生み出すにぎわいの場にします。

■小・中学校

学校は次世代の大木町を担う子どもたちでにぎわう場所です。ここで町民が身近に集い交流できる機会をつくっていきます。

■こっぽーっと(町民活動プラザ)

図書・情報センターを核に、子育て交流センター、ホール、総合体育館で構成され、さまざまな目的をもった人々の交流と、町民の質の高い暮らしづくりのサポートをします。

■クリークの里石丸山公園

堀の町大木の形態をとどめるばかりでなく、この公園を実験場として堀保全や堀愛護を試行し、全町に発信できるように機能させます。

■鎮守の杜

水平的な田園景観の中に点在する濃い緑の森が鎮守の杜で、これも本町の景観の大きな要素です。お宮の行事は、宗教的な意味合いというより、今日では地域連帯の維持・涵養にとって重要な役目を果たしています。鎮守の杜をコミュニティの交流に活用していきます。

■歩行者・自転車交通のネットワーク

低炭素社会づくり、高齢化対策・健康づくり、観光交流づくりを目的に、大木町のフラットな地形を活かして整備を行います。

■主要道路沿線

「食の景観」を見せるための道路や整然としたまち並を保つ道路にしていきます。



広い敷地だから
広い空が望める



花壇づくりの楽しみが広がる



キバナコスモスが咲きほこる堀岸（蛭池）

3) 質の高い暮らしの景観を整える

命と次世代を大切にすることを旨とした環境に負担をかけない暮らし方は、自然豊かな落ち着いた暮らしを満喫できる居住・生活空間の中で成り立ちます。

このような暮らし方を実感できるよう、暮らしに直結した堀の環境改善に努め、広い空の下に広がる緑豊かな田園・集落景観の中で、循環に根ざした「質の高い暮らし方」を確立することで、緑の風が吹き渡るこの素晴らしい景観を次の世代に自信をもって引き継ぎできる町にしていきます。

【対象エリア】

町全域の居住地区エリアが対象となります。

